

一般質問

市政全般にわたり15人の議員が質問しました。

骨髄ドナー支援事業について 本市の見解を伺う

伊藤 多華 議員《公明党》

骨髄移植を必要とする患者のために、血縁関係のある健康な人、非血縁者から提供される骨髄液を患者にあつせんするシステムが骨髄バンクです。しかし、骨髄バンクに登録していても実際に移植を受けられる患者は6割にも満たないとされています。ドナーも提供段階で家族の同意が得られなかったり、ドナーに選ばれても入院、通院の機会に対して仕事の都合がつけられなかったりするなど、移植への道は大変狭き門です。だからこそ、登録人口を増やし、一人でも多く助けられるように、公的な支援などのプラスアルファが求められています。

県内では骨髄ドナー支援事業の実施自治体は18自治体となりましたが、本事業推進についての見解を伺います。

健康部長 本市としては、まずはドナー登録を呼びかけ、登録者数を増やす取り組みが必要と考えます。ドナーになる方には、骨髄の提供に伴う検査や入院といった身体的・精神的な面への負担がかかります。何らかの公的な支援が提供されることにより、ドナー登録者数の増加につながり、骨髄移植の推進へと発展させることができると考えます。本市においても、県の事業を積極的に精査し、実施について検討していきます。

座間市公共施設再整備計画 を問う

加藤 学 議員《公明党》

伺います。

座間市公共施設再整備計画における施設整備イメージは、さまざまな施設の移転、統合、廃止案が記載されています。公共施設の縮減による行政サービスの低下が心配されますが、再整備計画の考え方について伺います。また、異業種の組み合わせなど、異なる公共施設の連携について

市長室長 公共施設再整備計画における施設の統合の考え方は、代替となる施設の確保を条件としています。特に高齢者を対象とした施設については、できる限り徒歩圏かつ同一コミュニティ内での設置を目指しています。今後、本市でも人口減少や少子高齢

延命蘇生処置を望まない 傷病者への救急対応を問う

池田 徳晴 議員《さま大志会》

延命を望まないと思意思表示をしていた傷病者が心肺停止となり、本人の意思を知らなかつた関係者による119番通報を受けて救急隊が駆けつけた際に、患者の家族等に心肺蘇生処置を拒否されるケースが相次いでおり、救急現場は非常に困惑しています。病気で終末期を迎えた国民の69%が自宅で看取られたいと願っているという調査結果もあります。本人の意思は尊重されるべきですが、一刻を争う救急現場で心肺蘇生等を全ての傷病者に実施することについては理解できません。一方で、一律の対応では蘇生を望まない傷病者の意思に沿えない現状があります。

救急隊員が心肺停止状態の傷病者に蘇生措置をする際に家族等が拒否した場合の対応

化が予想される中、市民にとって真に必要な施設サービスを持続的に提供していくため、高齢者に限らず、利用者のサービス圏域を考慮したいと考えています。また、異なる公共施設の連携については、市民サービスや施設利用者層、施設の老朽化の観点から、再整備計画において相乗効果が見込める施設について複数の機能をまとめる複合化、多機能化が一つの考え方であると受けとめています。複合化等による市民の利便性向上や世代間交流の促進、また、施設運営の効率化を勘案しながら検討していきます。

実際に見積もりを出した 事業者Xはどこか？

沖永 明久 議員《会派に属さない議員》

市民交流プラザの指定管理者の指定について、市が指定管理料の上限額を設定する際に、参考見積もりを徴取した事業者が1者しかなかったことは妥当性に欠けると思っています。



この問題は重い課題であり、国が実態把握に努めていることから動向を注視していきます。今後は心肺蘇生を望まない傷病者に係る救急出動をしっかりと把握していきます。

交通弱者対策と 地域交通行政を問う

安海 のぞみ 議員《会派に属さない議員》

国土交通省は、道路運送法上の許可または登録を要しない運送に関し、金銭収受が可能な範囲を明確化するなどの通達を出しました。市民による移動支援を介護保険の総合事業に位置づけ、既に実施している自治体もあります。互助による移動支援について、高齢者のタクシー、バス利用補助の拡大について、それぞれ考えを伺います。また、10月からのコミュニティバスの運行見直しについて、内容と理由をお示しください。

健康部長 介護保険の生活支援体制整備事業で買い物支援等に取り組んでおり、資源の把握など今後も関係機関と

定されたのはアクティオ・日鉄コミュニティ共同事業体です。このうち日鉄コミュニティは、新日鉄興和不動産の子会社であり、もし、アクティオが実際に見積もりをした事業者だとすると、完全な出来レースになってしまいます。実際に見積もりを出した事業者はどのなのか、明らかにしていただきたいと思っています。

オリンピックでの 国際交流について

松橋 淳郎 議員《さま明進会》

世界的なスポーツの祭典、第32回オリンピックが2020年、東京で開催されます。政府は、大会を通じた新しい日本の創造と掲げる施策の中で、大会参加国と文化的相互

本会議の概要

- ▽8月29日 開会、会期決定、会議録署名議員指名、議案上程・提案説明・質疑・委員会付託省略・討論・採決、議案上程・提案説明
- ▽8月30日 総括質疑・委員会付託、報告上程・質疑
- ▽9月6日 一般質問
- ▽9月9日 一般質問
- ▽9月10日 一般質問
- ▽9月30日 委員会審査報告・質疑・討論・採決、基地政策特別委員会中間報告・質疑、議案上程・提案説明・質疑・委員会付託省略・討論・採決、議員提出議案上程・（提案説明・質疑・委員会付託・討論）省略・採決、副議長の選挙、常任委員会委員・議会運営委員会委員・特別委員会委員の選任、高座清掃施設組合議会議員の選挙、議員派遣、閉会
- なお、質疑、総括質疑、討論は、次の議員が行いました。
- 議案第42号・第43号に対する質疑（8月29日）
- 加藤陽子（会派に属さない議員）、安海のぞみ（会派に属さない議員）

（5面へ続く）